

2040プロジェクト 研究会

# 働くことの意味と尊厳を巡って

D.L.ブルーステイン「人間の仕事－意味と尊厳」の主な論点と議論

2024.8.7

キャリアカウンセリング協会 藤田真也

# 1.土台となる 「ワーキング心理学」 について

■ワーキング心理学の定義：心理学を基礎とした、すべての働く人と働きたい人々に対する、働くことの心理学的ウェルビーイングとその役割の実践に対する学識

■背景：働くことは、社会的つながり、経済的関係、公正で思いやりのあるコミュニティに対する共通のコミットメントをつなぐ意図である。働くことによって、社会的・経済的な世界とつながることができ、満足や成功、落胆や挫折を味わう機会が与えられる。最高の状態で働けば、より良い自分につながり、人生の意味を見つけ、目的と貢献と達成感のある人生を創造する確かな基盤を築くことができる。しかし多くの人にとって、仕事は必ずしもうまくいくとは限らない。労働市場の周縁でもがいている人はいつの時代にも常にいて、米国では仕事に不安を感じる人や、臨時の仕事、不安定な仕事、仕事の核となる人間らしさや尊厳のない仕事の割合が増えている。

→これまでのキャリア理論、キャリア研究の多くは人生における選択肢がある人々を前提としている。ワーキング心理学は、生きるために働くしかない人々が世界的に増加する中で、社会正義を念頭に個人・組織・コミュニティへの介入の指針となることを企図して構成されている。

■ワーキング心理学の主要な仮説

- ①働くこと（仕事）は人生の中で中心的な位置を占める
- ②働くことはメンタルヘルスの中枢をなす
- ③ワーキング心理学は特定の学問では説明できない
- ④ワーキング心理学は働いている人も働きたいと願う人も含めすべての人を包含する
- ⑤仕事と仕事でない経験は密接に切れ目なく経験され、ランダムな形で交差し、豊かな人生経験を織りなす
- ⑥働くことは商品・サービスといった市場経済でのマーケットワークだけでなく、育児・介護、家族や人々へのケアワークを対象とする
- ⑦働くことは人間の中核的な3つの欲求を充足させる可能性がある（生存とパワーの欲求、社会的つながりと社会貢献の欲求、自己決定の欲求）
- ⑧働くこと概念を文化的文脈と関係性の理解から深める（失業、差別、貧困、ケアワークなどへの新たな視点提供）
- ⑨働くことの心理的特性を理解するには、社会的、経済的、政治的、歴史的な側面を、批判的視点で慎重に検討する

## 2. 「人間の仕事 - 意味と尊厳」の構成

著者：D.L.ブルーステイン ポストン大学大学院 カウンセリング・発達・教育心理学部教授

原題：The Importance of Work in an Age of Uncertainty : The Eroding Work Experience in America(2018)

手法：ナラティブ・インクワイアリーによる内容分析

章立て：1.生きていること—生活の中心的役割としての仕事

2.生き残り、生き生きと働けること

3.他者と共にいること

4.私たち自身よりもっと大きなものの一であること

5.やる気を出し、最高の気分になること

6.ケアできること

7.抑圧や嫌がらせを受けずに働けること

8.仕事がないこと

9.尊厳を持ち、機会を得て働けること—一人間の生得権

## 3.各章の主な主張

### ■第一章 生きてること—生活の中心的役割としての仕事

働くことの本質は生存であり、生活の中心的役割。不安定性を増す時代の中で、21世紀の仕事の変化やデジタル革命などの変化への対応には心理学的視点が不可欠。格差の拡大にあってILOのディーセントワークアジェンダは社会経済正義の第一歩であるが、心理的特性は含まれていない。過酷で安定や意味を与えることのない仕事アイデンティティに与える脅威を論じ、公正・公平な仕事生活のためには心理学的視点が不可欠とする。

### ■第二章 生き残り、生き生きと働けること

ワーキング心理学における3つの欲求理論（生存とパワーの欲求、社会的つながりと社会貢献の欲求、自己決定の欲求）の解説。人種、性別、年齢、職種、仕事の有無、シングルマザーや家庭の貧困に関するナラティブ。

### ■第三章 他者と共にいること

人間関係と仕事があうことで、生活に意味、目的、他者との関係性の充実と喜び、達成感が与えられること。職場の人との関係性が極めて重要であり、時に過酷でひどい痛みを伴う形での影響を受けることに関するナラティブ。

### ■第四章 私たち自身よりもっと大きなものの一部であること

働くことは日々の生活を構成するより大きな世界への積極的な参加であり、ソーシャルグッドのための仕事に従事することもある。人は自分の仕事を最高の仕事にしようと努力することでも社会とつながることができる。自分の仕事を天職と捉えることの有効性理論に対して、正の側面と負の側面（キャリア選択の否定や所属組織への従属）がある。

### ■第五章 やる気を出し、最高の気分になること

これまでのモチベーション論ではなく、仕事生活が不安定で選択肢が少なくなる中で働く人のワークモチベーションの検討が必要。内発的・外発的モチベーションは重要だが、ワーキング心理学では自己決定とワークモチベーションの関心に注目する。自己決定を促す要素は、自律性、有能感、関係性を特定。自己決定はモチベーションの持続、どんな仕事でも自分の仕事として受け止め、本質的につまらない仕事でも仕事を充実させ得る可能性がある。

### ■第六章 ケアできること

ケアリング・モチベーション。私たちの仕事を看護、教育、育児、介護、障害者支援など他者のケアをする仕事生活と切り離すことはできない。不安定な仕事の増加や自動化の拡大とともにケアワークの機能とそれを支えるベーシックインカムの慎重な議論が必要になる。

### ■第七章 抑圧や嫌がらせを受けずに働けること

働くことを取りまく社会的抑圧と排除についてのナラティブ。働くことで他者と出会うすべての場で人種差別、性差別、階層の違い、性的志向、障害状態による良い経験、抑圧、嫌がらせを含む複雑な体験をしながらアイデンティティを形成する。排除の内面化における他者の存在。批判的意識は排除された人々にとって特に重要。

### ■第八章 仕事がないこと

失業の内的経験についてのナラティブ。失業の心理的経験の声をセーフティネット、再訓練、ケアワークのサポートなど公共政策に提言すること。

## 4. 第9章「尊厳を持ち、機会を得て働けること一人間の生得権」から～ブルーステイン博士の提言

### ■概要

米国において成功に関する典型的なメッセージは、成功や失敗の原因を過度に本人のせいにする。本書に登場するナラティブの話者は、生計を立てることに意義を見出す問題を自分のせいにしてきた。経済学や心理学や関連分野の実証研究は、人が自分の苦勞を自分のせいにする傾向を裏付けていない。ディーセントワークへのアクセスを用意することは米国社会にとって強い力となり、不平等拡大の危機が増大するにつれ一層有効になる。

提言：人間の仕事を単なるディーセントワークに留まることなく、意味と目的のある尊厳あるディーセントワークとなる仕事が展望されること。そのための方策の第一は、ディーセントワークを確保するための人権を確保すること一すなわち貧困撲滅の公約の下、働きたい人、働く必要のあるすべての人に対して人権としてのディーセントワークを追求すること。第二は、新自由主義の政策に統計データ主義だけでなく、人とコミュニティの影響を重視する視点を導入すること。第三に、生計を立てることから仕事を切り離し、ベーシックインカムが妥当かどうかの検討を始めること。第四は、人間らしい仕事で生きることや批判的意識を育成する教育を進めること。

### ■各論（前に進む方法）

#### Ⅰ 個人とコミュニティの視点

##### ①不確実性への対処（個人の視点）

悪化する労働環境に対処する人々に影響する最も厄介なストレス要因は、予測不能、不平等、延期したり打ち砕かれた夢。生活の予測不能さに対処する第一段階は、経験を正確にラベリングし、そのような気持ちを感じさせる推定原因と結びつけること。マインドフルネスや認知行動療法は有効だが、悪化する条件への適応支援だけが人々の最大利益ではない。ディーセントワークへのアクセスに関する米国社会の不平等への気づきは、人々とコミュニティを動員して批判的思考を高めて、仕事に関する人道的政策を求めることにつながる。

##### ②不確実性への対処（コミュニティの視点）

失業、不完全就業、生活の不安定さの拡大に対処する多くの人が孤独感を感じている。信仰に基づく団体、政府出資または非営利の職業安定所、キャリアカウンセリングオフィスなどの職業支援サービス、メンタルヘルス事業、教育と訓練、友人と家族、地域コミュニティが結集して、支援とつながりを提供する必要がある。米国における特に重要な戦略は、仕事から仕事以外の役割に移行することがますます困難な現実と直面する若者や成人に対して、キャリアカウンセリング、教育、訓練事業への投資である。現在のワンストップセンターでは不十分。質の高いキャリアカウンセリングは、人が自分の興味深い価値観、才能を合った新たな方向を特定する助けになる。またとりわけカウンセリングの側面では、仕事アイデンティティの一致、生活手段の提供、より幅広い社会とのつながりをより多くの人に与える確固たる基盤を失った心理的影響に取り組む人々を支援する上で非常に重要である。情報化社会が深化するにつれ、明らかに生涯続けなければならない訓練と教育の機会もキャリアサービスの強化によって提供する必要がある。継続的な教育と訓練については、あらゆる職業場面で手ごろな料金で利用可能な機会が必要である。社会に密着したコミュニティカレッジは有効なリソースであり、カレッジや大学は労働市場から締め出される大人にますます門戸を広げる必要がある。そしてすべての生徒と学習者のリソースとしてキャリアカウンセリング、メンタルヘルスカウンセリングの導入が、人間らしい尊厳あるディーセントワークへの道を拓くために不可欠であろう。こうした手段的支援の整備に加えて、精神的な心のインフラとして重要なことは、私たちがお互いに責任を負っているという意識である。社会がつながりと思いやりを大事にすると私たち自身が明言することによって、人間らしい意義ある仕事の機会を支援するコミュニティのリソースとマクロレベルの政策を、よりよく策定することができる。

## 4. 第9章「尊厳を持ち、機会を得て働けること一人間の生得権」から～ブルーステイン博士の提言

II マクロレベルの解決策（働くことで満たせる人間の根本的欲求をマクロ的観点に取り込む）

### ①人権と働くことの再検討

ナラティブに登場する共通テーマの一つは、ディーセントワークを探し、安定、安全、尊厳を提供する仕事で生計を立てることの困難さに対する激しい憤りであり、驚くほど多くの人が自然な働く欲求を奪われた感覚を述べた。人々は、働きたいと思ひ、生計を立てることができ、より大きなソーシャルグッドに貢献して人生に意義あることをしたいと欲していた。国際連合やILOなど多国間政府組織の取り組みはあまりうまくいっていない。

### ②新自由主義的政策と働くことの心理的経験

見て見ぬふりをしてきた特に重要な問題は、レーガン政権時代から米国や世界中の多くの地域で主流の新自由主義である。新自由主義の政策は、基本的な政治的価値観、個人の権利に関する信念、経済体制の観点には欠かせないが、多くの点で、仕事に関するリスクを雇用主から従業員へ移す考えと政策が入り混じっている。新自由主義政策の議論に、市場の成長、失業統計、金利、国際競争力を重視する統計データによる経済体制研究と同時に、新自由主義政策が人とコミュニティに及ぼす影響を明確に重視する必要がある。市場から利益を得ていない人々に対する影響は、職場の安全性の低下、人間らしさと安心の減少であった。

### ③持続可能な生計手段（生計を立てることと仕事を切り離す時か？）

ベーシックインカム制度（GBI）を巡っては、労働市場を関わりたいと思っている多くの国民にとって最善の利益になるかどうか？という議論、GBIを配分する方法に関する右派（失業保険や障害者給付金など他のすべての社会福祉支援にとって代わるもの）、左派（失業、不完全就労である期間の生存を確保する手段）、第三の主張（社会経済的不平等の拡大に対抗する再配分の経済的正義）の議論がある。GBI議論の基本的テーマは、労働市場から生存欲求を切り離すことである。大量の雇用喪失予測が正しければGBI制度は必要である。しかし本書では、世の中で十分に生きていくとを感じる心理的・社会的リソースを人々に提供する意義のある仕事に従事する必要があるという立場をとる。仕事がなくなる人がいるのであれば、GBIがすべてを解決するのではなく、有意義な生活を送る手助けをする必要があり、人々が興味の対象や、生活に意義と目的を提供するようなプロジェクトに関与したいという自然な努力行為の対象を見つける手助けをする方法を開発する必要がある。

### ④不確実性の時代の教育と仕事

米国における教育の果たす役割は、若者の社会化の手段、認知・対人関係スキルの提供、目的意識と良識を備えた大人の育成などだが、その主な構成要素の一つは、若者を仕事の世界に移行させる手助けである。仕事が生活維持に必要ななくなった世界に入り、教育が将来のキャリアの成功とつながらなくなると、教育者は生徒が勉強する動機づけをどうやって与えるのだろうか？本書を通じて考えた考えの一つは、労働力がいかに変化しているか生徒が理解する手助けをすることである。さらに教育者は、生徒が自分の選択肢を検討するうえで慎重に検討しなければならない目的や意義などの心理的要因を強化する必要がある。そして批判意識の育成によって世界を読む教育をすることが、機会を制限している社会的・経済的勢力の性質を識別できる市民を育成し、より公正な解決策を提唱する助けになる。

## 4. 第9章「尊厳を持ち、機会を得て働けること一人間の生得権」から～ブルーステイン博士の提言

### ⑤仕事に関する人道的な公共政策の策定、⑥仕事に関する人道的な政策の実施

#### ●仕事の創出

新自由主義時代の大半は雇用創出の主な方法は自由市場であった。大恐慌（失業率30%超）時代には政府出資による雇用を大幅に導入し、その後も歴史の様々な時代と多くの国で行われた。20世紀後半の共産主義国家は国家が唯一の雇用主であるが、明らかに失敗し停滞した全体主義社会を招いた。必要に応じて雇用創出に十分な柔軟性を持つためには、厳しい新自由主義政策と厳しい共産主義政策の間が必要である。

#### ●仕事の新しい環境

米国の労働人口の大半は、製品を作って販売する人か、人が買いたくなるサービスを提供するビジネスしか眼中にない。芸術的または知的な創造的取り組みやケア提供を中心とする仕事は周縁化されてきた。一方多くの政策アナリストはケアの仕事や創造する仕事は、自動化と人工知能を前にしてもっとも手堅い職業になると予測する。仕事に対する人道的な公共政策は、GDPや営業利益を増やさない仕事に出資・維持する取り組みを含むのである。むしろ公正で持続可能で人間らしい仕事の開拓がそれ自体実行可能な目的になる。仕事が公的機関によって創出され、より平等な税制政策によって支払われ、価値を創造し、繋がることを尊重する政策によって維持することができるという考えを採用すれば、仕事が生産だけにつながるものではないという未来を構想できる。生産性、消費、利益を具体化した新自由主義政策から仕事を切り離せば、人々のウエルビーイングとコミュニティの福祉への貢献として仕事を概念化できるかもしれない。具体的には、教職、カウンセリング、社会福祉の仕事など人を助ける仕事。

#### ●ケアギビングの仕事と持続可能性

育児・介護は、人が社会で生きるために不可欠であり、仕事生活（と人との関係生活）に不可欠である。ケアワークの性的差別的側面と低賃金に関する複雑な問題が言及されてきたが、安定した仕事が減少している状況にメリットがあるならば、家庭のケアワークへの所得支払いの保証に繋げるべきである。安定した賃金と給付金によって家庭のケアワークを合法化することは、GBI（例えば生活保護）よりもはるかに実質的で、ケアギバーの継続的な訓練と支援につなげることができる。

### ■最後に

本書の最も一般的なテーマの一つは、仕事と経済的に自立する必要性の交点である。自動化によって増えた富を賢明かつ公正に使う米国の世界の人々を支援するならば、仕事の性質の変化が繋がりを解明するカギになる。もう一つのテーマは、精一杯生きていると感じる手段となる仕事の役割である。生活における多くの人間関係や経験が、深い喜び、意義、目的意識、手ごたえをもたらす。必ずしも有意義でなかったり興味をあることではなかったりする仕事でも、自立したり家族を養ったりできることによって精いっぱい生きていると感じることができる。

ディーセントワークの欠如、機会の減少、満足感の得られない仕事によって労働市場で精いっぱい生きていると感じることができない人に対して、社会は別の形で意味と目的のある生活の枠組みを提供する責任がある。自動化によって仕事の機会が著しく損なわれた場合、何らかの形でGBIが保証されると仮定すれば、内的な目的意識につながる活動に従事する機会を生み出す方法について考える必要がある。

ディーセントワークに従事し、精一杯生きていると感じることは、人権の中核であって全員が共有する必要がある。仕事が行われていくのを傍観するのではなく、創造、貢献、協働する自然な人間の行動を養い認める状況を創ることに、私たち全員が責任をもって全力を尽くすべきである。人間らしい尊厳ある仕事に従事することは、私たちのDNAに存在し、私たちの健康とウエルビーイングと、コミュニティ繁栄の中核をなしているのである。

## 5. 議論

1. 仕事の概念について。本書のコンセプトを拡大して、全ての仕事は、①マーケットにおける成果、②共に働く他者もしくは関係する他者へのケア、の2つの構成要素からなると捉えることもできる。ケアの概念をケアワーカーに限定せずすべての仕事に拡大するほうが様々な施策検討のうえで有効ではないか？
2. 日本において、政策に「心理学的側面」を導入するには何ができるのか？
3. 日本において、仕事に対する人道的な公共政策としてGDPや営業利益を増やさない仕事に出資・維持する取り組みを強化することは現実的に可能なのか？
4. 家庭のケアワーク報酬の仕組み導入ほか、教職、カウンセリング、社会福祉の仕事など人を助ける仕事が、人々のウェルビーイングとコミュニティの福祉への貢献としての仕事として概念化できるとする考え方について。
5. キャリアカウンセラーの役割についての議論。
  - \* 質の高いキャリアカウンセリングは、人が自分の興味良い価値観、才能を合った新たな方向を特定する助けになる。またとりわけカウンセリングの側面では、仕事がアイデンティティの一致、生活手段の提供、より幅広い社会とのつながりをより多くの人に与える確固たる基盤を失った心理的影響に取り組む人々を支援する上で非常に重要である。
  - \* すべての生徒と学習者のリソースとしてキャリアカウンセリング、メンタルヘルスカウンセリングの導入が、人間らしい尊厳あるディーセントワークへの道を拓くために不可欠。
6. そもそも本書での議論は日本の2040にどんな意味があるのか？